

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防災対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	東日本大震災での課題や教訓を反映させた平成25年度末に修正した地域防災計画に基づき、減災、自助、共助、災害時要援護者に対する支援や男女共同参画の視点を取り入れた対策見直しを行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	災害に強いまちづくりのため、避難所運営マニュアルや防災ハンドブックなどの作成を進めていく。
②①に基づく取組み結果	避難場所誘導看板の設置など、災害に強いまちづくりのための整備を進めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	防災意識の高揚を図ると共に万一の災害発生時に応急活動等が行えるようにする。
②事務事業の概要	災害から市民の生命・身体及び財産を守り、災害に強いまちづくりを基本として防災体制の強化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地震の多発や台風被害の大規模化また、宅地化による保水力の低下等災害発生の危険性が高くなっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	地域における防災体制が充実し、災害発生時の応急活動等が円滑に行えるようになった。市民の防災意識が高まり、自助、共助の精神から地域において住民同士が相互に助け合い、災害の被害を少なくすることが出来た。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	総合防災訓練参加者数	1,105	1,163	1,196	人	業務取得
	ii	自主防災組織率	62	58	56	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	17,440	24,139	金額(千円)	内容		28,566	
国支出金(千円)			11,202	委託料(防災気象情報等)			
県支出金(千円)		567	5,542	需用費(消耗品費)			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	17,440	23,572				28,566	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	各種災害に対して迅速な対応が求められており、ハード面においても計画的な整備が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	鎌ヶ谷市地域防災計画に基づき、計画的に防災体制を強化することが求められているため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成27年度への繰越額(単位:千円)				

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防災行政無線管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	防災行政無線等の情報伝達手段について、いつ発生するかわからない災害に備えて、適正に維持管理していく。また、市民から、放送が聞き取りづらいなどの問い合わせについては、保守点検業者と協議しスピーカーの向きなどの変更を行い、改善を図り、適切な管理運営のため保守点検を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	防災行政無線等の情報伝達手段について、いつ発生するかわからない災害に備えて、適正に維持管理していく。また、市民から、放送が聞き取りづらいなどの問い合わせについては、保守点検業者と協議しスピーカーの向きなどの変更を行い、改善を図り、適切な管理運営のため保守点検を行う。
②①に基づく取組み結果	年2回、5月と1月に計画的に保守点検を実施し、老朽化した機器については修繕を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、防災関係機関	意図(対象をどうするのか)	市民や防災関係機関に災害時に迅速に情報伝達等が出来るようにする。
②事務事業の概要	防災行政無線は、災害時における市民への情報の伝達手段としており、災害時に適切に運用できるよう平常時から整備をするものである。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	住宅の高層化や部屋の高気密化などにより、放送が聞き取りづらいなど住民からの問い合わせがある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	地域における防災体制が充実し、災害発生時の応急活動等が円滑に行われるようになった。市が防災行政無線の管理運営を行うことで、防災体制の強化につながり、市民が防災行政無線を災害時の重要な情報源の一つとして認識することとなった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	防災行政無線保守点検委託料	3,030	3,030	3,331	千円	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	18,199	26,252	金額(千円)		内容		
	国支出金(千円)		11,220		使用料及び賃借料		
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	18,199	26,252			16,069	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	住宅の高層化や部屋の高気密化などにより、放送が聞き取りづらいなど住民からの問い合わせがある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	災害時の情報伝達は重要性を増しており、地方公共団体の果たす役割として欠かせない。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③達成状況	0	補正		0	現年分	
		流用・充当				
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防犯対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	防犯灯維持管理費補助金、新設補助金の改定	③平成27年度に取組む改革・改善内容	新設時や修理交換時のLED灯導入の推進などにより、防犯灯設置の拡充や維持管理費負担の軽減を図る。
②①に基づく取組み結果	防犯灯維持管理費補助金については、電気料金分を全額補助対象とし、新設補助金については、LED灯設置に係る補助金の増額を行うよう交付基準を改定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	○防犯灯補助金事業：市内自治会等の防犯灯管理団体 ○防犯協会補助金：鎌ヶ谷市防犯協会	意図(対象をどうするのか)	○防犯灯補助事業：夜間の安全確保及び防犯活動の積極的な展開を図ることができる。 ○防犯協会補助事業：防犯協会による市域全体の防犯活動の充実を図ることができる。
②事務事業の概要	○防犯灯補助事業：市内自治会等の防犯灯管理団体が行う防犯灯の新設及び維持管理費に対し補助を行う。 ○防犯協会補助事業：防犯協会の事業に補助を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	防犯施策の推進により、市内の犯罪発生件数は前年に比べ185件減少しているが、今後も防犯対策を強化する上でも、市が積極的に関与する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	防犯灯の整備により、犯罪の起こりにくい環境が整備されるとともに、市民が防犯協会と連携しながら、自主的な防犯活動が展開され防犯体制が整備された。 東中沢地区5台、東初富地区5台、道野辺中央地区5台、新鎌ヶ谷駅周辺地区2台の合計17台の防犯カメラの適正な運用を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i 刑法犯認知件数		1,314	1,399	1,214	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	72,521	81,889	金額(千円)		内容	86,095	
国支出金(千円)	1,374	889	66,143		防犯灯維持管理費補助金		
県支出金(千円)	84	75	2,500		防犯灯新設事業費補助金		
市債その他(千円)			5,835		防犯協会補助金		
一般財源(千円)	71,063	80,925				86,095	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	防犯灯管理団体における維持管理費負担が増加しており、負担軽減への対策を講じる必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	維持管理費の軽減や環境への配慮ため、防犯灯のLED化促進が求められている。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H25⇒26繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	0		流用・充当	
	平成27年度への繰越額(単位:千円)			

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	避難所備蓄倉庫整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくれます	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続して、避難所に防災備蓄品の整備を進めていく。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	継続して、避難所に防災備蓄品の整備を進めていく。
②①に基づく取組み結果	備蓄品整備計画に基づき、不足している毛布、炊き出しセット、仮設トイレなどの備蓄品の整備を進めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	災害における避難者、要援護者、帰宅困難者	意図(対象をどうするのか)	生活支援及び援助
②事務事業の概要	災害時における避難者及び災害時要援護者、帰宅困難者に対する支援、援助を行うため、平成25年度までに全22箇所の指定避難所に整備した防災備蓄倉庫に、地域防災計画や備蓄品整備計画に基づき、必要な物資を備蓄する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	いつ発生するか分からない大災害に備え、早急に備蓄品の整備が求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	22箇所の指定避難所に、不足している備蓄品の整備を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	防災備蓄倉庫設置箇所数	16	22	22	箇所	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	83,026	39,279	金額(千円)	内容	72,339		
国支出金(千円)			32,945	災害用消耗品			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	83,026	39,279			72,339		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	いつ発生するか分からない大災害に備え、早急に備蓄品の整備が求められている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	大災害の発災直後における避難所等の住民への生活支援及び援助は重要である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	備蓄品購入	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	備蓄品購入	40,899	39,755	当初	40,899	39,279	H25からの繰越
				H25⇒26繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-1,144		
		平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	夜間防犯パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1		○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくれます	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に防犯体制の強化に努める。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	市民からの情報などにより、犯罪が起きやすい状況にある地域などのパトロールを重点的に巡回するようになる。
②①に基づく取組み結果	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施し、不審者を発見した場合は、警察へ通報した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内で発生している犯罪	意図(対象をどうするのか)	犯罪のない安全で安心なまちづくりの実現を目指すため、犯罪の多い夜間にパトロールを実施することで、犯罪件数を減少させる。
②事務事業の概要	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施する。また、不審者を発見した場合は、直ちに警察へ通報する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内の犯罪発生件数の著しい増加は見られなくなっているが、安全で安心な生活環境を確保するため、今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施し、13件の警察通報を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	刑法犯認知件数	1,314	1,399	1,214	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	8,883	9,113	金額(千円)	内容		11,219	
国支出金(千円)			9,113	夜間防犯パトロール委託			
県支出金(千円)	8,883						
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		9,113	9,113			11,219	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市内の刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、空き巣などの侵入盗の件数が多い状況となっている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	安全で安心な生活環境を確保するため、犯罪の起きやすい夜間のパトロールを継続する必要がある					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	11,154	9,113	当初	11,154	9,113	H25からの繰越
				H25⇒26繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-2,041		
		平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	井戸付耐震性貯水槽整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくれます	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	第四中学校に井戸付耐震性貯水槽を整備する。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	南部地区における井戸付耐震性貯水槽の整備を完了する。
②①に基づく取り組み結果	9月補正後、10月末より井戸付耐震性貯水槽本工事を開始した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	災害時に飲料水を供給する。
②事務事業の概要	大規模災害発生時において、水道が断水し、市民の飲料水の供給が絶たれた場合に備え、生活上必要不可欠な飲料水を確保し災害に強い街をつくる。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	昨年度、実施設計業務やさく井工事を行ったが、実施設計業務は、26年度へ継続した。また、10月末から開始した本工事は、27年度(6月末)まで継続し完了する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	南部地区に未整備の井戸付耐震性貯水槽を2か年計画で第四中学校に整備するにあたり平成25年度から継続して実施設計業務を行い、その後本工事を開始した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	井戸付耐震性貯水槽整備数	5	5	5	箇所	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	8,076	34,424	金額(千円)	内容	44,000		
国支出金(千円)			26,000	機械設備工事費等			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)		26,000					
一般財源(千円)	8,076	8,424			44,000		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現在、本工事の最終段階であり、27年6月末までに完了する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	飲料水の確保は重要であり、大災害の発災直後における避難所の住民や、断水した家庭への供給を行うことができる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	25年度から継続した実施設計業務及び本工事	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	25年度から継続した実施設計業務及び本工事	70,000	82,399	当初	0	H25からの繰越	12,399
				H25⇒26繰越	12,399		
③達成状況	未完了			補正	70,000	現年分	22,025
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成27年度への繰越額(単位:千円)		44,000			